

# たかおさん

「カケスのへそくり」の巻

「のぶすま」最新号とバックナンバーを高尾山山頂にある、高尾ビジターセンターにて配布しております。



作・絵：なかの

## X(旧Twitter)でふりかえる高尾山ニュース!

高尾ビジターセンターのX(旧Twitter)・Facebookをチェックしていただいているみなさま、いつもご覧いただきありがとうございます！  
山頂の気温や天気、旬な自然情報などを毎日発信しています。  
2023年7月～9月の間のツイートから、注目のニュースをご紹介します。



猛烈な暑さが続いた夏でしたが、今年の山の日にはみなさんどのように過ごされましたか? ビジターセンターのスタッフが山の日に出会ったアオダイショウは、「よく見るとつぶらな瞳がとっても可愛い!」と多くの方にいいねをいただきました。山内でのこんな出会いが嬉しいですね!

### 解説員 くらむ vol.35

動物との出会いに思うこと

高尾山で働いている私たちにとっても、動物との出会いはかなり貴重! この夏、私はニホンリスと出会いました。木の上の方からがさがと音が聞こえ、何がいるのかなと探していると、樹皮を食べているニホンリスを発見! お食事中のキュートな姿をカメラに収めた後は、嬉しくなるんしながらビジターセンターへ戻ります。そして、今日は大変ラッキーだった! と他のスタッフへ自慢するのです。

そんな私が過去最高に嬉しかったのは、アナグマの赤ちゃんとの出会いです。短い鼻をふんふんさせながら、てちてちと歩く姿は可愛さの極み! 自分の中の可愛い動物ランキングでアナグマの赤ちゃんが急上昇1位を獲得するほどでした! こんな時、近づいて触りたい気持ちもよぎりますが、解説員の私は愛用の望遠カメラを駆使して距離を保ちます。高尾山は観光地である一方、動物たちの住処でもあるわけですから、動物たちの邪魔をしないように、アナグマの赤ちゃんをびっくりさせないように距離を取りながら、しっかりと可愛い姿を堪能させていただきます。

秋の紅葉シーズンは本当に人でいっぱいな高尾山ですが、さまざまな動物が暮らしています。高尾山の自然は人間だけではなく、動物も利用していることを頭の片隅に入れていただきながら、動物との貴重な出会いを楽しんでいただけると嬉しいです。

〈解説員 かわまた〉

高尾山山頂から発信!

# のぶすま

「のぶすま」とはムササビの古い呼び名です。

vol.73 季刊  
2023年 秋号

## 山頂周辺の哺乳類たち

景色を眺めたり写真を撮ったり食事をしたり、みなさんがのんびりと過ごしている山頂は、動物たちが日頃よく活動している場所でもあります。人の少ない時間帯や夜、(中には白昼堂々と!)山頂で活動している動物たちを紹介します。

### 目撃率 No.1!



活動の増える春～初夏に目撃多数!  
2023年の5月頃は、マークのついた場所をよく歩いていました。

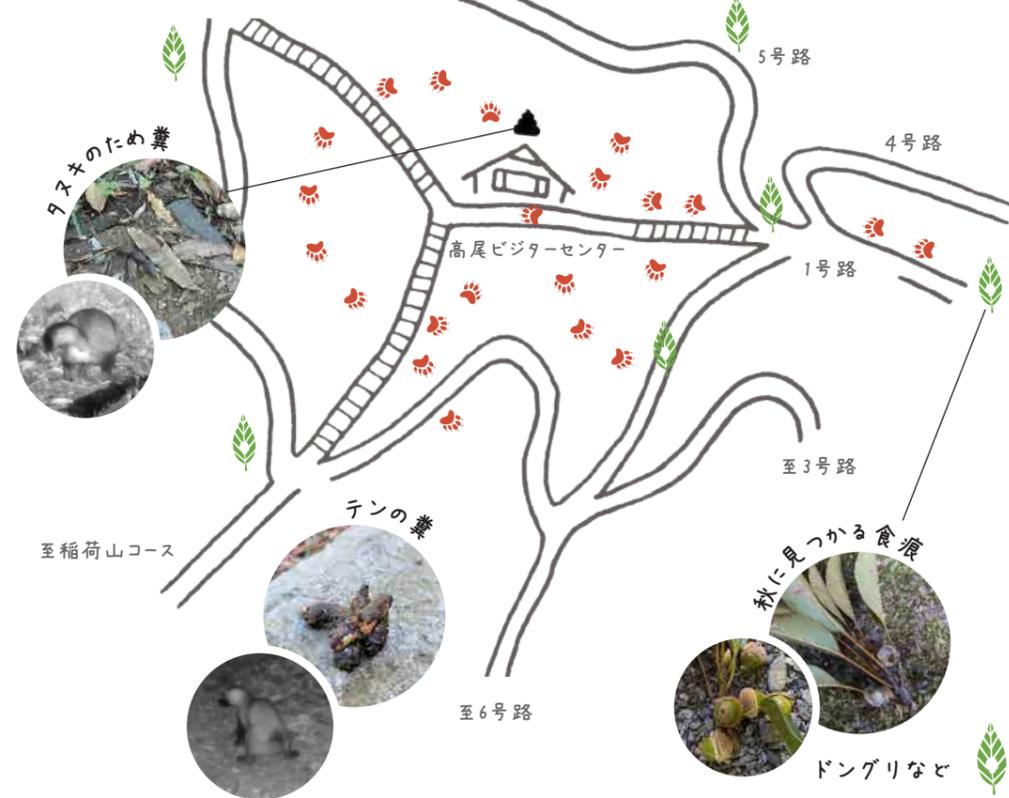
### センサーカメラで激写!



山頂でセンサーカメラに写った哺乳類(2023年9月現在)  
ニホンジカ、イノシシ、タヌキ、アナグマ、テン、イタチ、ムササビ、コウモリ類、アライグマ、ハクビシン



ボカボカと暖かい日に会えるかも



## ムササビの食事スポット多数!



5号路周辺はムササビの食糧がよく見つかります。

夜中に何頭くらい来ているのかな?

マークのついた場所を探してみよう

## ビジターセンター裏の階段は大人気!



ビジターセンター裏の階段はタヌキの「ため糞」を長年観察している場所です。この階段はタヌキ以外の動物も通っているようで、何度も通過していくアナグマなどを見ると、人の使う道は動物たちも通りやすいのかもしれない。

## 山頂で何をしているの?



山頂周辺にはアナグマやムササビをはじめとする動物たちの巣があり、くつろいだり子育てなどをしていると思われます。スタッフが出会う時は、食べ物を食べている姿を見ることが多いです。また、いつも同じような場所を歩いていることから、動物たちにとって生活場所の見回りは欠かせないようです。

## 私の思う、山頂のすごいところ

高尾山内でもダントツ人でにぎわう山頂ですが、高尾山で暮らす動物たちの暮らしぶりが身近に感じられる、オスサメの観察スポットでもあります。ムササビが一年を通して利用している樹木をはじめ、タヌキやアナグマが好むヤマグワやアケビの実、季節によって得られる旬な食べ物など。動物たちにとって魅力的な環境があるからこそ、山頂が彼らの「生活の場」となっているのです。



## 動物たちに配慮した登山ができているかな?



「ゴミを残さない」 「エサを与えない」 「触らない」

日々の仕事で動物たちの存在を身近に感じ、楽しみながらも適度な距離を保つことを心がけています。動物の暮らしを尊重できる山の楽しみ方を、これからも考えていきたいです。

〈解説員 やまもと〉

## 持ち込まれた生きものたち

2023年7月のこと、常連のお父さんとかわいい兄弟が「6号路に白いサンショウウオのような生きものがいた」とスマホで撮影した写真を見せてくれました。見てみると、6~7歳の男の子の小さな手と同じくらいの大きさのウーパールーパーの姿が…!

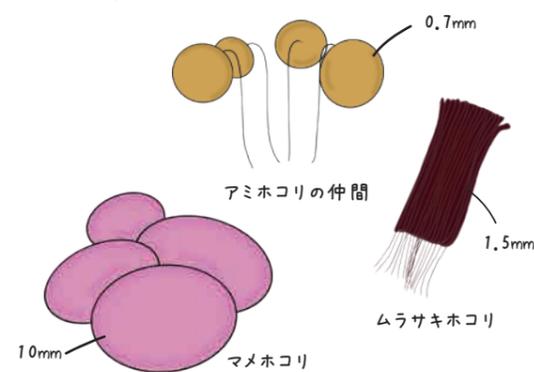


ウーパールーパーの正式名称は「メキシコサラマンダー」と言い、本来高尾山に生息するはずのない生物です。このように人為的に自然分布域の外に持ち込まれた生物を「外来種」といいます。高尾山にも、鳥や虫、哺乳類などあらゆるグループにおける「外来種」が生息しており、生態系への影響が懸念されています。例えば、野鳥で大きな存在感を出しているのがガビチョウです。ガビチョウはペットとして輸入された個体が逃げ出して、野生化したものと考えられています。歴史を辿ると、江戸時代から輸入の記録があるようですが、野外では1980年代に北九州で確認されたのが最初で、高尾山では1999年から2001年頃に確認され始めています。その数は年々増えており、高尾山で鳴き声を聞かない日はありません。

果樹園の周辺では野生化が著しく、最近では東京の山々をはじめ、高尾山内でも多数確認され分布を広げています。また、最近では善意によるものとされる外来種の持ち込みの報告もあります。元々は高尾山に生息し1950年代後半には絶滅してしまつたとされるギフチョウが、ここ数年奥高尾で目撃情報が相次いでいるのです。おそらくギフチョウの復活を望む方により、他所の産地の個体が放たれたものだろうと推測されます。植物においても、これまでにスミレの仲間やランの仲間など、元々自生はしているものの、他所の産地の株の可能性があるものや、元々生えていなかった場所に不自然に現れ、植栽の疑いのあるものなどの報告がいくつもあります。それは復活してほしい、無くなりたいでほしいといった善意による行為かもしれませんが、しかし、これもまた伝統的かく乱により生態系を壊しかねない行為なのです。きっと自然界の生態系は私たちが考える以上にとても繊細で緻密なバランスで成り立っています。様々な考えがあるかとは思いますが、他所から生き物を持ち込む行為は高尾山の生態系を脅かす大変危うい行為ですので、どうか思いとどまっていたいただきたいです。

〈解説員うめだ〉

### 【子実体のいろいろ】



子実体とは: 孢子(子孫)を作るための器官

粘菌(変形菌)

動物でも植物でもない 不思議な生き物



解説員の

vol.31

〈解説員 いしかわ〉

観察時期: 梅雨〜秋が多い 場所: 6号路に多い